



歩き旅

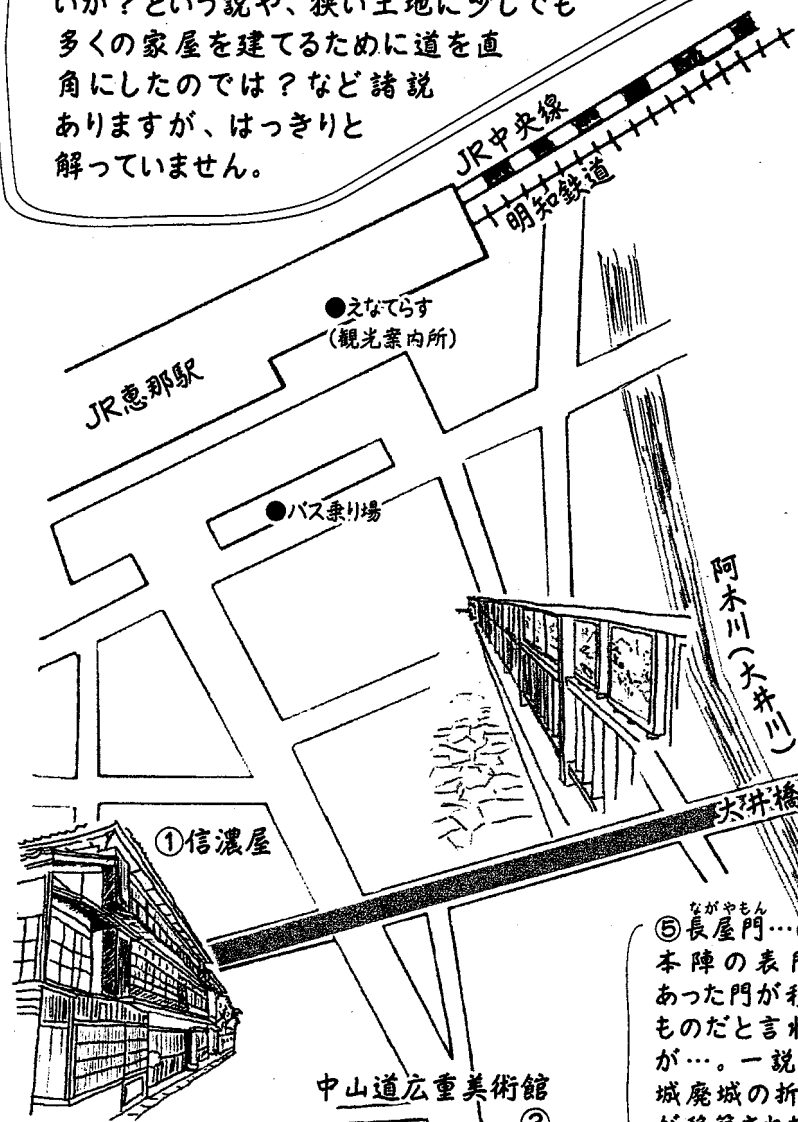
清らかな水を湛え、400年の歴史が宿る 中山道大井宿

「六つの枡形」と「和宮泉」

六つもある“枡形”の謎!?

大井宿の町並みは、横町・本町・豎町・茶屋町・橋場のそれぞれのまち外れでほぼ直角に曲がっています。

宿場の特徴の一つとされる“枡形”ですが、すべての宿場にあるわけではなく、あっても一ヶ所が多い中、大井宿の枡形は六つ、しかもすべてが美しい直角を描いています。大井宿の特徴でもあります。枡形は通常、城や城下町に築かれるもので、幕府は大井に城を築き城下町にしようとしたのではな
いか?という説や、狭い土地に少しでも多くの家屋を建てるために道を直角にしたのでは?など諸説ありますが、はっきりと解っていません。



①信濃屋
大正元年の建築ですが、明治の建築様式を伝える木造3階建ての信濃屋は、かつて福沢桃介と貞奴、北原白秋も訪れた由緒ある旅館です。

②中山道広重美術館
円熟期の広重が中山道を描いた「木曾海道六拾九次之内」など浮世絵版画を中心に収蔵しており、ほぼ毎月入れ替え展示をしています。模擬版木を使った重ね刷り体験も人気! ※月曜休館

⑤長屋門...の謎!
本陣の表門の北にあった門が移築されたものだとされているが...一説には岩村城廢城の折、城の門が移築されたとも...謎多き門なのです!

⑥いち川
かつては「角屋」と呼ばれた街道沿いの旅籠で、若山牧水、北原白秋など文人墨客に愛された400年の歴史を持つ老舗旅館です。美濃16宿の中で最も旅籠が多かったのがここ大井宿です。そして40軒以上あった旅籠も現存するのはここだけ!

⑨中山道ひし屋資料館(有料)
有力な商家であり、長く庄屋を務めた「ひし屋」古山家は、明治初年に改築され、大規模な近世的町屋建築として残されています。*月曜休館

⑦明治天皇行在所
明治天皇が明治13年(1880年)6月28日に、この場所(当時は伊藤家)にお泊りになりました。現在でも部屋・風呂場・畳敷きのトイレなど当時のまま残されている珍しい建物です。令和3年度改修工事を終え長屋門を移設し「しづく大井宿」が現在保存PR活動を行っています。

④古屋家
江戸時代には大井村の庄屋を務めた家柄でした。土壁で塗った塗り込め式の建物で虫籠窓や卯建が有る江戸期の零囲気を残す建物です。

⑩大井宿本陣跡(林家)
書院のついた豪華な本陣でしたが、昭和22年に焼失してしまいました。現在は安土桃山様式を伝える薬医門が残っています。

⑮寺坂の馬頭観音
人のために懸命に働く馬を労って、この土地の八名の女性が馬頭観音を建てました。重い荷物を運ぶ馬の姿とそれを見守る人の姿が重なって見えます。観音様の裏面には女性たちの名前が印されています。それもまた珍しい! 後ろを見て確かめて!

⑪南無阿弥陀仏の碑(名号塔)
この石碑は、江戸時代に旅の途中で亡くなった母親の菩提を弔って家族が建てた碑です。大井宿の人達のおもてなしに感謝して、武蔵の国からわざわざ石工を派遣して建造したものです。

⑬菅原神社
大井宿の繁栄と無病息災を祈って建てられたであろう石仏が並んでいます。羨望り地藏や庚申塔、南無阿弥陀(※仏なし)、また徳本和尚の南無阿弥陀仏の碑など珍しい石仏群です。

⑭長國寺
行基が開山したと伝わる寺院です。歌人の西行法師を葬送した寺としても知られています。寺には西行の位牌などが残されています。東京芸術大学教授日比野克彦氏作、「妊観音像」が安置されています。

⑮内城稲荷
この稲荷は大井の城の守護神であったと言われていいます。社前のひょうたん形の石は武将吉村源吉が伊勢の河原で拾い煙草入れの根付に使っていたと言われていいます。

⑯和宮泉
大井宿には古くから良水の湧く井戸がたくさんありました。“大井”という地名もここから由来します。この井戸は本陣林家が常用した井戸で、和宮さまが御降嫁の折に水守役の山城守が、「良水これに勝るものなし」と言って、大井で御昼食だけでなく、次のお泊りの中津川宿まで運ばせたという話が残っていることから、この名がつけました。

